

| 科目 | 週時数 |
|-------|----------------------|
| 国語/書写 | 国語 4.5 書写 0.5 計 5 時間 |

| | | |
|----|--|---|
| 目標 | 国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、社会生活に関わることなどについて伝え合う力を高め、考えを広げようとする態度を育てる。 目的や意図に応じて、広い範囲から情報を集め活用する能力を身につける。 思考力や想像力を養い言語感覚を高め、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。 | |
| | 知識技能 | 自分の立場および伝えたい事実や事柄を明確にして、文書の構成などを工夫して書き表すことができる。 自らの考えを進んで書き表し相互に助言をしたりして自分の考えを広げることができる。 |
| | 思考判断表現 | 異なる立場や考えを想定して、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりすることができる。 話しことばと書き言葉の違い、敬語の働きを理解し的確に用いることができる。 |
| | 主体性協働性多様性 | 多様な方法で適切な情報を得て、自分の考えをまとめることができる。 異なった考えを理解し、知識や体験と関連付けて自分の考えを持つことができる。 読書に親しみ生活に役立てようとする態度を持ち、見方や考え方を広げることができる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|-----|--|---|
| 1学期 | 【教科書】 ・手紙の効用 ・短歌を楽しむ ・字のない葉書 ・辞書に描かれたもの ・ハトはなぜ首を振ってあるのか ・卒業ホームラン ・古文(教科書所収教材) 【文法】 助詞 【弁論文】 【書写】 書き初め書道展作品作成 | ・筆者のものの見方や考え方、表現の仕方を捉える。 ・登場人物の物の見方や考え方について、自分の考え方をもち、伝え合う。 ・見聞きしたことや体験したことをもとに、自分の考えを工夫して書き表す。 ・古文の表現の特徴を理解し、当時の価値観や時代背景について考えを深める。 |
| 2学期 | 【教科書】 ・黄金の扇風機,サハラ砂漠の茶会 ・走れメロス ・お礼状を書こう ・「正しい」言葉は信じられるか ・坊っちゃん ・漢詩(漢詩のきまり) 【文法】 助動詞 敬語 | ・複数の情報源から情報を得て自分の考えをまとめる。 ・人物像を捉え、場面の展開や表現の方法について考える。 ・読み手を意識して、的確な表現になるように文章を推敲する。 ・漢文を書き下し文に直し、内容を理解したうえで作品を読み味わう。 |

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 ペア学習 |
| 教科書 | 『新しい国語2』(東京書籍) 『新しい書写 一・二・三年』(東京書籍) |
| 副教材 | 『単元別漢字2』(秀学社) 『つまづかない! 文法の学習』(新学社) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(小テスト, 提出物等)による総合評価 |
| 備考 | 調べ学習を取り入れる |

| | | |
|------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|--------------|-----|--|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 語句の意味から教科書の内容を理解し考えを深めることができる、漢字小テストの完答、『文法の学習』練習問題の完全理解 |
| | 60% | 教科書の語句の文中の意味の理解、漢字小テストの80%の解答、『文法の学習』基本問題の完全理解 |

※80%=80点を取るための目安。

| 科目 | 週時数 |
|-------|-------------------------------------|
| 地理/歴史 | 3 時間 (1学期 地理 2 歴史 1, 2学期 地理 1 歴史 2) |

| | | |
|----|--|--|
| 目標 | (地理) 日本の国土の成り立ち, 自然条件, 歴史的背景のみならず, 他の地域との比較により, 多様な暮らしが営まれていることを理解し, 自ら主体的に調べ, 考えて, 様々な方法で表現するとともに, 社会で必要とされる資質や技能を育てる。 (歴史) 日本を中心に, 近代(19世紀)までの各時代の特徴や歴史的展開を, 史料を活用して批判的に考察・理解し, 時代観を示すことができる。 | |
| | 知識技能 | 事柄や事項について, 因果関係を含めて理解することができる。また, 地図帳や地形図などから, 地図情報やその地域の地理的特徴を読み取ることができる。 |
| | 思考判断表現 | 自分が理解したことを調べてレポートなどにまとめ, 文章や図表を用いて的確に表現することができる。また, 自分なりの学習ノートを作成し, 学んだ知識を再構成することができる。 |
| | 主体性協働性多様性 | テレビのニュースや情報番組, 新聞, インターネットなどの情報を積極的に活用し, 学校で学んだ知識に厚みを持たせることができる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|--|---|
| 1 学期 | (地理) 第2部 世界のさまざまな地域 2章 世界の諸地域 5節 南アメリカ州 ~ 6節 オセアニア州 第3部 日本のさまざまな地域 3章 日本の諸地域 1節 九州地方 (歴史) 3章 武家政権の展開と世界の動き 2節 戦乱から全国統一へ ~ 4章 近代国家の歩みと国際社会 ~1節 欧米諸国における「近代化」 | <ul style="list-style-type: none"> 南アメリカ・南半球の国々について, 人口・面積, 自然, 産業, 国の歩みや文化などの観点から理解・考察する。 九州地方について, 自然環境, 農・林・水産業, 工業, 観光業などの観点から理解・考察する。 近世の日本について, 時代の特徴と歴史的展開を理解する。 諸資料を活用し, 歴史的事実を考察し, 時代観を示すことができる。 |
| 2 学期 | (地理) 第3部 日本のさまざまな地域 3章 日本の諸地域 2節 中国地方~7節 北海道地方 (歴史) 2節 開国と幕府の終わり ~ 3節 明治政府による「近代化」の始まり | <ul style="list-style-type: none"> 中国地方~北海道地方について, 自然環境, 農・林・水産業, 工業, 観光業などの観点から理解・考察する。 近代の日本について, 時代の特徴と歴史的展開を理解する。 諸資料を活用し, 歴史的事実を考察し, 時代観を示すことができる。 |

| | |
|-------|--|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 ペア学習 ICTを活用した学習 |
| 教科書 | 『中学生の地理』(帝国書院) 『中学校社会科地図』(帝国書院) 『中学生の歴史』(帝国書院) |
| 副教材 | なし |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | グループ学習、発表を取り入れる |

| | | |
|------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え, 仲間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|--------------|-----|---------------------------------------|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 教科書の語句の完全理解, 教科書の資料・写真・地図および配布資料の完全理解 |
| | 60% | 教科書の基本語句の完全理解, 教科書の資料(写真・地図)の理解 |

※80%=80点を取るための目安。

| 科目 | 週時数 |
|----|------|
| 数学 | 5 時間 |

| | | |
|-------|--|--|
| 目標 | 数量, 図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め, 数学的な表現や処理の仕方を習得し, 事象を数理的に考察する能力を高めるとともに, 数学的活動の楽しさ, 数学的な見方や考え方のよさを知り, それらを進んで活用する態度を育てる。さらに, 発展的な問題に対して, 既習事項を元に自ら解決する力を育てる。 | |
| | 知識技能 | 数学的活動を通して, 式の計算, 平方根, 2次方程式, 関数 $y=ax^2$, データの活用, 確率と標本調査, 図形と相似, 線分の比と計量, 円, 三平方の定理における基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 事象を数学的に考察し, 処理する仕方や推論の方法を身につけ, よりよく発展的に問題を解決することができる。 |
| | 思考判断表現 | 数学的活動を通して, 式の計算, 平方根, 2次方程式, 関数 $y=ax^2$, データの活用, 確率と標本調査, 図形と相似, 線分の比と計量, 円, 三平方の定理における数学的な見方や考え方を身につけ, 事象を数学的にとらえ, 過程を振り返り多面的・発展的に考え, 表現できる。 |
| 育てたい力 | 主体性協働性多様性 | 数学的活動を通して, 考え方や体系に関心をもつとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識し, それらを発展的な事象の考察に活用しようとする。自ら課題を見だし, 解決するための構想を立て, 考察・処理し, その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|--|--|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・式の計算 ・平方根 ・2次方程式 ・関数$y=ax^2$ ・データの活用 ・確率と標本調査 | <ul style="list-style-type: none"> ・文字を用いた多項式について, 式の展開や因数分解を行い, 目的に応じて式を変形することができるようにする。 ・平方根の意味を理解し, 平方根を含んだ式の計算が出来るようにする。 ・2次方程式について理解し, 解けるようにする。また, 諸事象に応用出来るようにする。 ・関数$y=ax^2$やいろいろな関数について, 表, 式およびグラフ用いて表現し, 諸事象に応用する。 ・統計の基本的な考えを理解するとともに, それを用いてデータを整理, 分析し傾向を把握する。 ・具体的な事象についての観察や実験を通して, 確率について理解できるようにする。 ・標本調査の必要性や意味を理解し, 知識や技能を活用して, 論理的に考察し表現する。 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・図形と相似 ・線分の比と計量 ・円 ・三平方の定理 | <ul style="list-style-type: none"> ・相似の意味, 三角形の相似条件, 平行線と線分の比についての性質, 相似比と面積比および体積比の関係について理解する。 ・三角形の比の定理について理解し, 活用できる。 ・円周角の定理などについて理解し, 角の大きさを求めたり, 図形の性質や関係について考察する。 ・三平方の定理の意味を理解し, 直角三角形の辺の長さを求めたり, 平面図形の性質や関係について考察する。 |

| | |
|-------|---|
| 授業の形態 | 一斉授業, グループ学習および発表 |
| 教科書 | 『新しい数学2』(東書 数学828) |
| 副教材 | 四訂版 体系数学2 代数編・幾何編(数研) 四訂版 体系問題集 数学2 代数編・幾何編【発展】(数研) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | 解法の説明や問題演習などの機会を多く設定する。ICTを活用する |

| | | |
|------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え, 仲間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|--------------|-----|------------------------------|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 副教材 体系数学2 代数編・幾何編の演習問題の完全理解 |
| | 60% | 副教材 体系数学2 代数編・幾何編の例題・練習の完全理解 |

※80%=80点を取るための目安。

| 科目 | 週時数 |
|---------|--------------------|
| 理科①/理科② | 理科① 3 理科② 2 計 5 時間 |

| | | |
|----|--|---|
| 目標 | 各分野での観察・実験技能を習得し、自らの考えを導き出し表現する能力を高める。また、日常の身近な事象から疑問点や課題を設定し、観察・実験・VTR学習を通して探究を進める。それによって、身近な物理現象、電流とその利用などを理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 | |
| | 知識技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・気象要素と天気の変化の関係について理解する。 ・化合、分解などにおける物質の変化やその量的な関係について理解する。 ・生物の体は細胞からできていることを、観察を通して理解する。 |
| | 育てたい力 | <ul style="list-style-type: none"> ・現象の観察、実験などの結果を分析して解釈し表現するなど、科学的に探究する活動を通して、規則性を見出したり課題を解決したりする力を養う。 ・実験をもとに、物質のなり立ちや化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだし表現する。 ・植物や動物のからだのつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだし、表現する。 |
| | 主体性協働性多様性 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱う身近な現象に対する「問い」を見いだし仲間と共有し、観察や実験の結果を踏まえ、科学的な概念を使用し考えたり説明できたりする力を養う。 ・また、自然環境を保全し生命を尊重しようとする意欲と態度を育てる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|--|--|
| 1 学期 | 【理科①】 ●単元2 生物のからだのつくりとはたらき ・生物と細胞 ・植物のからだのつくりとはたらき ・動物のからだのつくりとはたらき ・刺激と反応 【理科②】 ●単元3 天気とその変化 ・気象の観測 ・雲のでき方と前線 ・大気の動きと日本の天気 | 以下の各項目についての習得を目標とする。 【理科①】 植物・動物のからだのつくりとはたらきと、それにもとづく分類 さまざまな動物の比較による生物の変遷 【理科②】 気象の観測方法と気圧、湿度、雲のでき方 前線の種類、日本の天気の特徴、地球環境の保全 |
| 2 学期 | 【理科①】 ●単元1 化学変化と原子・分子 ・物質の成り立ち ・物質どうしの化学変化、酸素が関わる化学変化 ・化学変化と物質の質量 ・化学変化とその利用 【理科②】 ●単元4 電気の世界 ・静電気と電流(静電気・電流の正体、放射線) ・電流の性質(電流・電圧・抵抗、電気エネルギー) ・電流と磁界(モーター、発電機、直流と交流) | 以下の各項目についての習得を目標とする。 【理科①】 ・化合、酸化、燃焼、還元のおくみ ・化学反応式の表し方 ・質量保存の法則と定比例の法則 ・発熱反応と吸熱反応 【理科②】 ・電流回路についての観察、実験を通して、電流と電圧との関係及び発熱などの電流の働きについて理解するとともに、日常生活と関連付けて電流と磁界及び放射線についての初歩的な見方や考え方を養う。 |

| | |
|-------|---|
| 授業の形態 | 一斉授業 |
| 教科書 | 『新編 新しい科学2』(東京書籍) |
| 副教材 | 理科の自主学習2年(新学社) カラーブック理科資料宮城県版(東京法令出版) シリウスvol2(育伸社) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|--------------|-----|--|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 実験や観察から得られた知識を元に、副教材の問題集のほか、授業でのプリントが解ける |
| | 60% | 副教材の問題集にある試験範囲の問題をきちんと理解して解ける |

※80%=80点を取るための目安。

| 科目 | 週時数 |
|----|------|
| 音楽 | 1 時間 |

| | | |
|-----------------------|-------------------|---|
| 育 て た い 力 | 知識 技能 | 基本的な発声, 奏法ができる力。 基本的な楽譜の読み書きができる力。 |
| | 思考 判断 表現 | 基本的な知識, 技能を使って表現する力。 様々な音楽の特徴の違いを聴き分ける力。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | ペアやグループの仲間と学びあう力。 グループやクラスで協力して表現する力。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|-------------|--|--|
| 1 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・表現(歌唱) 「浜辺の歌」, 「早春賦」 ・鑑賞 「フーガト短調」(J.S.バッハ) 雅楽「越天楽」 ポピュラー音楽 ・楽典 音階 ・創作 リズムパターンづくり | <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞と音楽の関係を考察し表現することができる。 ・西洋音楽の代表的な形式「フーガ」についての知識を理解し, 音楽の構造を読み取ることができる。 ・日本伝統音楽の歴史と構造に興味・関心を持つ。 ・ポピュラー音楽の種類を理解し鑑賞する力を身につける。 ・楽譜の読み書きに必要な基本的な知識を身につける。 ・音符・休符の知識を活かして, オリジナルのリズムをつくることことができる。 |
| 2 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・表現(歌唱) 「花の街」, 「You can fly!」 ・鑑賞 「交響曲第5番」(ベートーヴェン) 能 郷土の音楽や芸能 ・楽典 調、近親調 | <ul style="list-style-type: none"> ・クラスで協力し合い2部合唱を作り上げる面白さを体感する。 ・西洋音楽の代表的な形式「ソナタ形式」についての知識を理解し, 音楽の構造を読み取ることができる。 ・日本伝統音楽の歴史と構造に興味・関心を持つ。 ・楽譜の読み書きに必要な基本的な知識を身につける。 |

| | |
|-------|---|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 ペア学習 |
| 教科書 | 『中学音楽2・3上 音楽のおくりもの』(教育出版) 『中学器楽 音楽のおくりもの』(教育出版) |
| 副教材 | 「音楽のハーモニー2・3年上」(正進社), 教師作成のプリント, 教師作成の復習プリント |
| 評価の方法 | 定期試験, 実技試験, 平常点(ワークシート, ノート, 感想文, 復習プリント等) |
| 備考 | chromebookの使用(小テスト, 感想文, アンケート等) |

| | | |
|--------------|--------|--|
| 到達 目 標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②実技テスト | 表現の特性を理解し, 指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え, 仲間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|------------------|-----|-------------------------|
| 知識・技能分野 の到達目安 | 80% | 教師作成の復習プリントの完全理解 |
| | 60% | 「音楽のハーモニー2・3年上」の問題の完全理解 |

※80%=80点を取るための目安。

| 科目 | 週 時 数 |
|----|-------|
| 美術 | 1 時間 |

| | | |
|-----|---|---|
| 目 標 | 身近な“美”に興味関心を抱き、生活と美術との関わりの深さを知ることができる。 課題制作を通して、手作りの面白さと表現の多様性を知ることができる。 | |
| | 知識 技能 | 作家の生涯や時代背景を通して、作風の変遷や表現技術、作品に込められたメッセージなどを知ることができる。 制作に関わる基本的な技術と能力を身につけ、自分のイメージが表現できる。 世界遺産の学習を通して、美術との関わりを知ることができる。 |
| | 思考 判断 表現 | 創造力豊かに表現できる。 試行錯誤を繰り返して個性を引き出すことができる。 素材(材料)の特性を理解して有効に利用できる。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | PCを利用しながらの調べ学習を通して制作に活かすことができる。 他者の作品を鑑賞しながら意見交換を通して考え方や表現の多様性を知ることができる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|---------|--|--|
| 1 学期 | I ピカソに学ぶ II 絵画 作品1)「私のゲルニカ」 ・アイデアスケッチ ・使用道具の工夫 ・作品展示、鑑賞 | ・ピカソの生涯を通じた造形活動を学び、表現の変遷と多様性を知る。 ・「ゲルニカ」が制作された時代背景や作品に込められたメッセージを知ることによって作品が訴える内容を理解する。 ・制作に使用する道具の選択による色の効果を考えながら、新たな「ゲルニカ」を表現する。 ・全生徒の作品を展示して観賞することで、表現の多様性を知る。 |
| | III 焼き物について ・焼きものの歴史と技法 ・絵付けについて IV 陶芸 作品2)「絵皿」 ・アイデアスケッチ ・成形→絵付け→釉掛け ・作品鑑賞 V 世界遺産 | ・日本の焼き物についての歴史や技法を知る。 ・既製のものと関わらずに、絵付けや装飾に創意工夫を重ねてアイデアスケッチを描く。 ・手びねり・板づくりの技法を用いて形をつくる。 ・呉須と弁柄を用いて、それぞれの特性を活かしながら絵(模様)を描くことができる。 ・本校の電気釜を使用することで、焼き物が出来上がるまでの一連の流れを知る。 ・他者の作品を鑑賞して表現の多様性を知る。 |

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 授業の形態 | 実技 |
| 教科書 | 『美術2・3』(光村図書) |
| 副教材 | 陶芸用粘土 |
| 評価の方法 | 実技(作品)点と定期試験と平常点による総合評価 |
| 備考 | PCを利用した調べ学習や作品鑑賞、世界遺産に関する学習を適宜取り入れる。 |

| | | |
|----------|-------|---|
| 到達 目標 | ①定期試験 | 試験範囲を理解した上で完全解答を目指す。 |
| | ②小作品 | 課題作品のアイデアスケッチや下描きを丁寧にを行うことで作品完成のイメージを高めさせる。 |
| | ③提出物 | 期限を守って作品やプリントを提出できる。 |
| | ④準備 | 忘れ物なく作業の準備をして、授業終わりには後片付けを積極的に行える。 |
| | ⑤学習態度 | 作業説明と指導に耳を傾け、試行錯誤を繰り返しながら制作に取り組める。 |

| 科 目 | 週 時 数 |
|-------|------------------|
| 体育/保健 | 体育 2 保健 1 計 3 時間 |

| | | |
|-----|---|---|
| 目 標 | 体育分野では心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。保健分野では個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。 | |
| | 知識技能 | 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身につけ、運動を豊かに実践することができるようにする。また、心身の機能の発達と心の健康について理解できるようにする。 |
| | 思考判断表現 | 運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る。 |
| | 主体性協働性多様性 | 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|--|---|
| 1 学期 | 【体育】 体づくり運動 *組体操、運動会の練習 体育理論 バレーボール ソフトボール 相撲 【保健】 生活習慣の健康への影響 | 【体育】・体づくり運動に自主的に取り組むとともに、体力の違いに配慮しようとする、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 ・ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開する。 ・相撲は、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、押したり寄りたりするなどの攻防を展開する。 【保健】 ・生活習慣の健康への影響について学び、喫煙、飲酒、薬物乱用を避けるための具体的な対処の仕方について理解する。 |
| 2 学期 | 【体育】 陸上(走幅跳) バasketボール サッカー 【保健】 怪我の予防と応急手当 運動やスポーツの効果・学び方・安全 | 【体育】 ・走幅跳では、スピードに乗ったリズムカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができるようにする。 ・ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開する。 【保健】 ・けがの実態や原因を知り、交通事故や災害、犯罪から身を守るための方法、応急手当のしかたについて理解を深める。 ・運動やスポーツの体と心への効果を知り、安全で合理的な学習方法について理解できるようにする。 |

| | |
|-------|--------------------------------|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 |
| 教科書 | 『最新中学校保健体育』(大修館) |
| 副教材 | 中学体育実技(学研) 最新中学校保健体育学習ノート(大修館) |
| 評価の方法 | 実技試験と定期試験(保健編)による総合評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|------|--------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②実技テスト | 競技の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| 科 目 | 週 時 数 |
|-------|------------------|
| 技術・家庭 | 技術 1 家庭 1 計 2 時間 |

| | | |
|-----------------|---|---|
| 目 標 | 生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術との関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。 | |
| 育 っ たい 力 | 知識 技能 | 自立に必要な基礎的・基本的な知識(技能)を習得し、工夫・創造する力を養う。 |
| | 思考 判断 表現 | 社会や環境との関わりについて理解を深め、技術や知識を適切に活用する力を身につける。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | これからの生活を展望し、自ら課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を身につける。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|--------------|--|---|
| 1 学 期 | <技術分野> ・エネルギー変換の技術(わたしたちの生活とエネルギー変換, エネルギー資源の利用, エネルギー変換の技術による問題解決) ・エネルギー変換に関する技術(評価・活用) <家庭分野> ・食生活の自立に向けて ・食品の選択と調理 ・地域の食材とその調理 | <技術分野> ・エネルギーに関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、エネルギー変換に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深め、それらを適切に評価し活用する能力と態度を身につける。 <家庭分野> ・基礎的な日常食の調理について手順や時間を考えて計画する。 ・調理技術を習得する。 ・地域の食文化の意義について理解する。 |
| 2 学 期 | <技術分野> ・情報の技術(情報とわたしたちの生活, 情報通信ネットワークと情報セキュリティ, 情報モラルと知的財産, コンピュータと情報処理) <家庭分野> ・自分の成長と家族 ・私と家庭生活, 家庭生活と地域 ・子どもの成長と人の発達 | <技術分野> ・情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、情報に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深め、それらを適切に評価し活用する能力と態度を身につける。 <家庭分野> ・自分の成長や生活は家族やそれに関わる人々に支えられていることに気づく。 ・幼児の心身の発達の特徴について理解する。 ・家族または幼児の生活課題を見付け解決を目指す。 |

| | |
|--------------|---|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 ペア学習 |
| 教科書 | 『技術・家庭 技術分野』(開隆堂) 『技術・家庭 家庭分野』(教育図書) |
| 副教材 | 技術・家庭ノート 技術分野(開隆堂 新学社) 家庭分野(教育図書) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(学習状況, 提出物, 授業態度, 作品評価等)による総合評価 |
| 備考 | PC(chromebook)を使用して調べ学習等を行う |

| | | |
|-------------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| 科目 | 週時数 |
|----|------|
| 英語 | 5 時間 |

| | | |
|----|--|---|
| 目標 | 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的に聞く、話す、読む、書く活動を行うことを通して、基礎的コミュニケーション能力の完成を目指す。 | |
| | 知識技能 | 教科書で用いられる語彙や表現で書かれた文章や物語を読み取ることができる。 教科書レベルの内容の会話、自己紹介、放送などを聞き取ることができる。 |
| | 思考判断表現 | 1つのテーマについて、まとまった内容を考え、わかりやすく興味を持って話を聞いてもらう方法を考え、表現する力を養う。 |
| | 主体性協働性多様性 | 伝えたい内容を整理して、自分から相手に伝えるための働きかけをする。 相手の話をよく聴き、理解して、協力して1つの結果にたどり着くためのコミュニケーション力をつける。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|--|--|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> •My Spring Vacation •A Trip to Singapore •Food Travels around the World •My Future Job •A Message to Myself in the Future •Homestay in the United States •Universal Design •Research Your Topic •Research and Presentation | 以下について理解し、4技能で英語の活動ができる。 <ul style="list-style-type: none"> •過去進行形 / There is [There are] •be going to / will / call + O + C / 5つの文構造 •接続詞 (when, if, that, because) •不定詞(副詞的用法・形容詞的用法) / It ~ to ... •have to [do not have to] / must [must not] / 動名詞 •how to ~ / show + O + how to ~ / be sure that ~ •比較級 / 最上級 / as ~ as ... |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> •World Heritage Sites •My Favorite Place in Our Town | <ul style="list-style-type: none"> •受動態 / 助動詞+受動態 |

| | |
|-------|---|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 ペア学習 |
| 教科書 | 『NEW HORIZON English Course 2』(東京書籍) |
| 副教材 | EIGO NO PARTNER2(正進社) Serius21英語2・3(育伸社) 中学版システム英単語(駿台文庫) |
| 評価の方法 | 定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実にやり、全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|--------------|-----|--|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 教科書の本文を自由に使いこなせる(読む・書く・聞く・話す) 副教材の問題をすべて解くことができる |
| | 60% | 教科書の基本文・語句を使いこなせる めきめきイングリッシュ2の確認問題をすべて解くことができる |

※80%=80点を取るための目安。

| 科 目 | 週 時 数 |
|--------|-------|
| 道徳(聖書) | 1 時間 |

| | | |
|-----|--|--|
| 目 標 | 人類の遺産である聖書の基本的知識及び価値観を学び、グローバル社会で公共の精神に生きる力を育てる。 | |
| | 知識 技能 | 歴史的、社会的背景を踏まえて本文を正しく理解する。 2000年の歴史を経ての今日的意義を探究する。 |
| | 思考 判断 表現 | 自分も含めた様々な人々から社会が形成されていることを知り、いかに共生するかを考える。 神の前で人間は有限であるが、同時に有意味である自己肯定感を促す。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | 異なった考えを積極的に捉え、これまでの自分の価値観と対比し生きる糧とする。 仲間と聖書を読み合うことで、全体の共同性を確認する。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|---------|---|---|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・新約聖書の成立と旧約聖書との関わり ・全27巻のあらましと分類 ・メシアとしてのイエスと人間イエス ・虐げられた人々への愛 ・偽善と戦う正義 ・罪の赦しの十字架 ・今もともに歩むキリストの復活 | <ul style="list-style-type: none"> ・聖書を学ぶ、必要性を知る。 ・伝統の中に多くの人々の犠牲と奉仕があることを知る。 ・3校祖と3L精神を学び、学院生としての自覚を促す。 ・教会の礼拝と、学校の礼拝の違いを知る。 ・イエス・キリストの生涯と、新約聖書の概観を知る。 ・無意識で取り組んでいた日本の「宗教」を理解する。 ・本来あるべき、神との関係性について知る。 ・本来あるべき、隣人との関係性について知る。 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・人は何で生きるか 愚かな金持ちから ・愛にはぐくまれて生きる私たち 一匹の羊から ・共生の中で生きる よいサマリア人から ・神と出会い 放蕩息子から ・与えられた能力 タラントンから ・何を中心とするか 富める青年 ・日々、新たに生きる ニコデモ ・謙遜に生きる ヤコブとヨハネ | <ul style="list-style-type: none"> ・目に見えないものを大切にする。 ・神の愛にはぐくまれつつ生きる。 ・隣人愛の生き方。 ・出会いの喜び。 ・与えられたものを感謝の中で用いる。 ・自己中心性への戒め。 ・礼拝により、常に新しくされる私たち。 ・社会に隣人に仕える生き方。 |

| | |
|-------|----------------------|
| 授業の形態 | 一斉授業 |
| 主たる教材 | 聖書 |
| 副教材 | なし |
| 評価の方法 | 定期試験、提出物、小テストによる総合評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|----------|-------|--|
| 到達 目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| 科目 | 週時数 |
|------------|-----------------------|
| 3L希望学/国際教養 | 3L希望学 1 国際教養 1 計 2 時間 |

| | | |
|----|--|--|
| 目標 | ESDとキャリア学習を通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、加えて未来を展望して、自らの使命を考える。 | |
| | 知識技能 | 世界にある様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。 |
| | 思考判断表現 | クラスやグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。 |
| | 主体性協働性多様性 | 誰も置き去りにしない社会を作るためには、何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|--|--|
| 1 学期 | 職場体験事前学習 英会話 「国際教養」 | 職場体験を行う上で必要な挨拶、マナーなどについて学習し職場体験に備える。 多文化環境で適切に行動できるよう、知識として学んだ表現を積極的に活用しようとする意欲を涵養する。 |
| 2 学期 | 職場体験 ファイナンスパーク実習準備 英会話 「国際教養」 | 職場体験を通して勤労観を養い、社会の一員としての自覚を高め、働くことの意義を学ぶ。 職場体験の内容をまとめ、発表用の資料を作成する。クラス発表、全体発表を行うことで、プレゼンテーション能力を養う。 ファイナンスパーク実習と事前事後の学習を通して、お金と自分に関わる様々な選択と意思決定を行う力を養う。 多文化環境で適切に行動できるよう、知識として学んだ表現を積極的に活用しようとする意欲を涵養する。 |

| | |
|-------|--|
| 授業の形態 | 一斉授業 講演 グループ学習 ワークショップ 個人の探究活動 |
| 教科書 | なし |
| 副教材 | なし |
| 評価の方法 | 学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|------|-------|------------------------------------|
| 到達目標 | ①定期試験 | なし |
| | ②小テスト | なし |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする |